

議会活性化特別委員会先進地視察報告書総括表

1 視 察 日	令和 6 年 10 月 28 日 ～ 10 月 29 日			
2 視察地・項目	①	熊本 県 山鹿 市	議会出前講座での主権者教育(シチズンシップ教室)について	
	②	福岡 県 那珂川 市	議員報酬の改定について	
	③	県 市・町		
	④	県 市・町		
3 参 加 者	1.	高濱 広司	委員長	6. 山口 弘宣 委員
	2.	永山 真美	副委員長	7. 朝長 英美 委員
	3.	光山 千絵	委員	8. 川添 太介 随員書記
	4.	村崎 浩史	委員	
	5.	田中 博文	委員	
4 視 察 経 費	162,180 円 ※ (8) 人分			

委員会先進地視察報告書

報告者 永山 真美

1 視 察 日	令和 6 年 10 月 28 日					
2 視 察 地	熊本県 山鹿 (市)・町					
3 参 加 者	議会活性化特別委員会					
	1.	高濱 広司	委員	5.	光山 千絵	委員
	2.	田中 博文	委員	6.	村崎 浩史	委員
	3.	朝長 英美	委員	7.	山口 弘宣	委員
	4.	永山 真美	委員	8.	川添 太介	随行書記
4 視 察 項 目	山鹿市議会が主体となって取り組んでいるシチズンシップ教室を調査し、議会主導の主権者教育の実施について考察する					
5 視察先選定理由・目的	大村市議会では、市民に開かれた議会、市民と近い議会をめざし、市民と議会のつどい「語ってみゅーか」を実施しているが、つどいのあり方や継続について様々な意見が出ている。山鹿市のシチズンシップ教室を調査することで、議会を身近に感じてもらう、また政治に関心を持ってもらうための取り組みについて学び、大村市議会の取り組みの参考にする。					
1. 山鹿市と山鹿市議会 人口:約48,000人 議員定数:20名(11名が1期目) 議長・副議長の任期:4年 2. 主権者教育を始めた経緯 (1) 山鹿市議会の課題 ①開かれが議会になっていない ②住民の理解と関心が得られていない ③なり手不足 「議会は必要なのか?」という声 ・議会報告会の参加も少ない＝議会に関心がない ・議員ひとり一人が力をつけていくことが大事なのは? 議会からのアクションが必要 主権者教育が必要では? 3. 小学校でのシチズンシップ教育 (1)なぜ、小学校でシチズンシップ教室を? ⇒議会としては、市の教育委員会が一番交渉しやすかった ・国会のことは、授業で学ぶので知っている。メディアの影響もある。しかし、市議会のことは何も知らない。 「政治家」は「なりたい職業ランキング」に入っていない。「職業講話」に市議は呼ばれない。 (2)シチズンシップ教室で伝えたいこと ①市議会について知る ②議員の仕事を理解する ③選挙の意義や投票の大切さがわかる (3)企画から実施まで すべてはコンセンサス! ①まず教育長!・・・即OK! 時代の変化が追い風に ②全議員へ提案 ③”選抜”議員と資料検討・作成・・・PTA役員や教職経験者、会派などを考慮 ④議長による議員への模擬授業・・・「何をするのか」を知ってもらう。資料作成も議長主導で 議会の中で議論						

6 視 察 内 容	⑤各学校の担当を希望により決定・・・「全員で、全部の学校に行く」 対象:6年 場所:教室 *教材:絵本「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」(R4. 11月マニフェスト大賞) (4)いよいよ学校へ (R4. 12月 模擬授業) ①各校の代表者が日程調整 ②読み聞かせボランティアへ依頼 ③市選管から投票箱を借用 ④投票用紙の印刷は議会事務局 ⑤もちろん、先生方から絶大なご協力！ (5)内容 ①議会と児童会 ②議員の仕事について ③山鹿市議会について ④「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」を使って 投票⇒開票⇒結果 *結果で結末が異なる) ⑤自分たちのまちの決まりは自分たちで決めよう ⑥議員になったワケ ⑦あなたも議員になれる！ *子どもたちの感想は、別紙資料に 5. 質問事項 Q. 実施方法について A. 3クラスある学校なら、その日に同時に3クラスで実施する。1クラスに2～3人の議員が入る。 Q. 「教室でやりたい」という要望に対する学校側の反応は。 A. 反対はなかった。体育館などで全学年実施も考えたが、教室で「授業」という形で実施することにこだわった。議員と子どもたちの距離感を大切にしたい。 Q. 担任との打ち合わせはどのようにされているか。 A. 担任との打ち合わせはない。日程調整は主に学年主任と行う。小さい学校では担任や校長先生の場合もある。読み聞かせを担当が「したい」と言っただけで、お任せしたこともある。 Q. 議員の発言に対するルールはあるのか。問題になったことはないか。 A. 発言内容に対するルールはない。問題もない。主義主張ではなく、「なぜ議員になろうと思ったか」を語る。議員からは「自分のルーツを再確認できて良かった」などの声も聞かれる。 Q. 保護者の反応や関りはどうか。 A. 保護者の感想を聞いたことはないが、家庭の中で子どもたちと話はしていると思う。読み聞かせボランティアからは「議会を身近に感じるようになった」「議会のことが良く分かった」といった感想を聞いている。直接保護者と関わる予定はないが、子どもを通して関心が高まっていると思う。 Q. 中学校への出前は考えているか。 A. 中学校でもしたいと思っている。別の内容でやりたいと思っている。 Q. ケーブルテレビの活用はどうか。 A. 山鹿市にはケーブルテレビがない。教室だけで完結してい Q. 教材を作る時の苦労は何か。反対しそうな議員への根回しはどうされたのか。 A. 資料作成は、他の議員から案も出て議長主導でたたき台を作成し、議会に提案して修正、完成させた。反対しそうな会派からも選抜チームに入ってもらったので、大きな反対はなかった。
【所見】	議長主導で資料を作成されたということで、議長は大変だったと思うが、選抜チーム全体で作ってしまえなかったのではないかと、とも思う。山鹿市は来年2月が改選ということで、「議会基本条例」に盛り込み、取り組みの継続を図るといわれていた。山鹿市の取り組みは、今後の本市での主権者教育のあり方を検討する際には大いに参考になると思う。

委員会先進地視察報告書

報告者 高濱 広司

1 視 察 日	令和 6 年 10 月 29 日
2 視 察 地	福岡 県 那珂川 市
3 参 加 者	議会活性化特別 委員会
	1. 永山 真美 委員 6. 朝長 英美 委員
	2. 光山 千絵 委員 7. 高濱 広司 委員
	3. 村崎 浩史 委員 8. 委員
	4. 田中 博文 委員 9. 川添議会事務局職員
	5. 山口 弘宣 委員 10.
4 視 察 項 目	議員報酬の改定について
5 視察先選定理由・目的	3年にわたって段階的に議員報酬を引き上げた理由等を学ぶため
6 視 察 内 容	那珂川市は、平成22年に国勢調査人口が5万人を超え、平成30年10月に単独で市制施行となり、令和2年度議会運営委員で、議会改革として3点を調査研究することになった。次の三つである。①予算特別委員会の常任委員会化(2⇒3)②委員会の可視化(映像配信)③議員報酬及び議員定数の見直し ③の、議員定数は現状維持の17人となったが、令和2年度中に議員報酬の結論は得られず、令和3年3月の改選後、新メンバーによる議運で再検討となった。 令和3年6月の議運で、平成22年以降、那珂川市特別報酬等審議会が開催されておらず、「議長を通じ市長へ開催するよう申し入れを行うこと」に決定した。那珂川町であった平成21年度までは福岡県町村会から報酬の検討基準が示されていたが、それ以降基準が示されず平成22年度の改定を最後に審議会が開催されていなかったようだ。 その結果、令和4年9月に特別報酬審議会会長から市長へ「那珂川市議会議員の報酬及び市長、副市長、教育長の給料月額について(答申)」が提出され、12月定例会で条例改正議案が可決された。 答申の概要は、県内29市で比較すると、市長等の給料額は妥当だが議員報酬は低い(最低)状況にあり、議員報酬は増額改定することが妥当である。改定実施時期は、令和5年度からの引き上げが適当と考えられるが、新型コロナウイルス感染症の影響下において、市財政の急激な負担増を避けるために段階的に引き上げることが妥当である。 改定額の考え方は、議員報酬の類似団体5市の平均月額423千円(那珂川市は300千円)、同様に市長給料は878千円(那珂川市は848千円)であり、市長給料比較の割合が96.5%であることから議員報酬金額の比率が同程度(408千円)なるよう改定額を定めた。 以上により、那珂川市の議員報酬は令和4年度の300千円から、令和5年度30%アップ(332千円)、令和6年度30%アップ(364千円)、令和7年度40%アップ(408千円)となった。
7 委員会所見	那珂川町が平成30年に那珂川市となったことが、議員報酬月額に大きく影響していると考えられる。 つまり、昭和44年全国市議会議長会では、市長級の概ね2分の1に該当する課長級を最低基準とすることが適当と答申。昭和53年全国町村議長会では、首長給与の30～31%と答申があったことが大きく影響していると考えられる。 議員報酬については、全国的にみて、これまであまり論議されてこなかった嫌いがあるが、議員のなり手不足が問題となってきた近年、ようやく論議されてきている。当委員会においても一定の方向性を見出したい。